

## 濱のつぶやき『道』

各種の研修を依頼される。その中で「道」を説くことがある。曰く、商人道・武士道...

これらに共通する「日本の道」と、海外での文化の興り方には大きな違いがある。

日本の場合は、大衆から沸き起こったムーブメントが複数の天才・逸材によって極められ「道」として結晶する。それをまた大衆に還元・再配分する仕組みとして家元制度などによる教育・研修システムが構築される。つまり大胆に言えば、大衆から発動された芸道の芽が芸術に昇華され、何らかの形で大衆を巻き込み国民的な芸術・文化となっていく。

華・茶から能・歌舞伎・落語など枚挙に暇が無い蕎麦を極める探蕎麦道をはじめ、寿司・天麩羅など元来はファストフードだったものを含む日本食が、それぞれの道を究められた結果、今では世界から稀有で高い文化性を持つものとして認められる時代となった。

対して海外の文化・芸術は最初から極少数の天才が創造し、それが商業化されるにつれ、世俗化する。

ファストフードなど御手軽なものから始まったカテゴリは、高質化する方向性がほとんどない。ジャンクなものは永遠にジャンクで、手軽化していく一方だ。このため人間の食べ物としては考えられない低級な扱いを受けた食材が平然と使用されていたりする。

ところが、ここに来て変化が起こり始めているという。ファストフードの象徴的なハンバーガ店で、たった3種類しかメニューの無いチェーンに客の列がついているらしい。このチェーンではメニューが少ない代わりに、有機など拘り抜かれた食材の量や、調理法が細かく指定でき、自分オリジナルのハンバーガを手に入れることができる。「極める」という点で、日本の「道」には及ばないものの御手軽カテゴリが御手軽に留まらず高質化し始めている点では、本質的に従来とは異なるムーブメントが起こっているのではないかと思う。

ボーダレス時代を生きることは、常に世界の中の日本を意識することではないだろうか。



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2015/01

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2015/01

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

# 謹賀新年

# 睦月



白山比咩神社にて  
by hama

# 寄稿『言祝ぐ文化を現代へ』

AMENO UZUME代表 石川 浩代

「あけましておめでと〜ございます」  
新年明けて元旦になると、日本人なら必ず言うお祝いの言葉です。

言葉で祝う事を「言祝ぐ・ことほぐ」と言います。これは、日本においては古の何時の時代から始まった習慣かはわかりませんが、和歌にも言祝ぎの和歌がたくさん見られます。

現代も「あけましておめでと〜ございます」というように、言祝ぐ習慣は健在です。しかし、「精神文化」としてや、「価値ある振舞い」として捉えている方は・・・現代ではほとんどいないのではないのでしょうか。

何でもそうですが、「意識して捉え直してみること」で、その価値が上がる」というのがあります。

私の場合は、「言祝ぐ」ことは、万葉集が出来た時から数えても、約千三百年位の歴史。価値が無く、流行に左右されることであれば、とつくとつに廃れていくはずだし、無意識の習慣にもなっていない状態のはず。精神文化、価値ある振舞いとして意識化して現代に活かしていくと、暮らしの足元から平和、安寧、豊かな方向へと今以上に変化していくのではないかと、ある日降って湧いたように、この考えが浮かんできました。そして、意識して捉え直してみること始めてみました。

まずは、「祝ぐ・ほぐは、祝う・いわう」ことなので、祝うってというのは実際どんな意味があるのか？と辞書をひくことから始めました。「祝ぐ・ほぐ」は古語なので、現代語の「祝う」を調べることから始めたのです。「祝う」とは、1 めでたいことがあった時、それを喜ぶ気持ちを言葉などで表す 2-1(1) 祝福のために贈りものをする 2-1(2) 祝福のために酒などを飲む 3 幸運を祈る

次にこのそれぞれの意味に当てはまると思える暮らしの状況を想起してみました。例えば、1の「めでたい」ことがあった時、それを喜ぶ気持ちを言葉などで表す「は、新年のご挨拶の「あけましておめでと〜ございます」とか、時代劇でよく使われていた、「祝着至極に存じます」など。2-1(1)の「祝福のために贈り物をする」は、快気祝、結婚祝、入学祝などを贈る習慣がある。2-1(2)の「祝福のために酒などを飲む」は、新年会、祝賀会などの宴席。3の「幸運を祈る」は、「どうかご無事を祈ります」とか「末永くお幸せに！」などの言葉を添えて、相手の幸運を祈ることをしている。

まだまだあるかとは思いますが、  
正直な感想は…日本人って、「こつこつ」「祝う振舞い」って無意識に暮らしの中であたり前のこととしてしているんだ…も、もしかして私の想像以上にすこいかもお…でした。そして「祝う」ことの原点は、「言葉で祝う、言祝ぎ」なんだなあというのでした。

「言葉の幸はふ國」として、歩んできた日本の歴史の壮大さに、しみじみと感じ入ったのです。

そしてここから、「では、現代にこれらを活かしていくには、どんな風に表現していくのが一番良いだろう？老若男女が理解し、繋がり合えるよう形作ること出来ないだろうか？」と考えたのが、「素敵発掘」

でした。

素敵発掘・・・それは「素敵なところを数多く挙げて書き出し贈る」という、とてもシンプルなものです。それは、人だけに限らず、物にも出来事に、組織にも地域にも、素敵は発掘していけるといふ特徴があります。

元々、「構想したら即実行してみる」が大好きな私は早速、最初は人に対してやってみよう！と実行に移してみました。指導を受けようと、「喜業塾」を主宰されている濱さんへ通常の色紙の倍半ほどある大きな色紙に、ご自身の「素敵」を百個書きだして贈らせていただきました。「一つ一つは貴方の財産です。使えば使うほど増えていきます」と言葉を添えて…

贈る時はほんと、ドキドキでした。というのも、濱さんは色々な講座も研修もされてきていますし、たくさんのご褒美も学ばれていますし、人間観察も鋭いからです。正直言って、こんなことくらいではふふうんで終わってしまうのではないかと…

濱さんの反応は、私の想像を遥かに超えるものでした。「うわあすごく嬉しい！ありがとう。それにしても、ほんとよくぞこんなことまでと思えることも僕のことを見ていてくれていたんだね。これはとても素晴らしいよ！」と、何度も何度も笑顔で色紙を見入って下さって…そして「うん、これはとても良いから講座にしたい方が良いね。サポートするから講座の形を作って行こう！」と。

とても嬉しい気持ちもありましたが、ぼかんとしてしまったのもありました。ま、まさか…こんな風感じてもらえるなんて…

しかし、演師匠に喜んでいただけただけからといって、うかうかしていられません。講座を作る作業と同時に、何人かの方々に素敵発掘を書いた色紙を贈りました。開店祝として、お世話になった方へのお礼として、お誕生日のお祝いとして。

贈った方々の感想は、これまた私の想像を超えた嬉しいお言葉ばかりでした。「私をこんな風に見てくれて嬉しいですよ」「大事に飾っておきます」「私も欲しいと思っていたのでとても嬉しいです」「私も素敵発掘出来るようになります！体験会がワークショップに参加したいのですが…」と、どんどんお声をいただくようになりました。

そして十月のこと…「素敵発掘は、人だけでなく、地域に対しても出来るんですよ」の言葉をきっかけに、今年一月二十四日、石川健民運動推進本部主催で「石川県の素敵 発掘 新幹線開業直前 あなただけが知っている『素敵』を発掘しよう」ワークショップが開催される運びとなりました。

また、今月より、正式に「素敵発掘・ひと編 講師養成講座」の開講も決まりました。

言祝ぐ文化の現代版である、素敵発掘。自身の想像を遥かに超えた展開となったのも、演師匠の喜業塾でのサポート無しにはありえませんでした。

今回、師匠への感謝と敬愛の気持ちを込めて、寄稿させていただきます。

本当にありがとうございます。



【プロフィール】(いしかわ ひろよ) 日本人力プロデューサー。人間観察力を養うため看護師を始め、飲食店経営など多面的な職業経験を経て現職。マインドプロックバスター養成講座も開講し、卒業生を多数輩出。

「囚人のジレンマ」という概念がある。共犯の2人が別々に尋問を受けた場合、黙秘するか、それとも自白するか？ 刑事が囁いた条件別懲役年数は次表の通りと仮定する。

	囚人B 黙秘(協調)	囚人B 自白(裏切り)
囚人A 黙秘(協調)	(A:2年、B:2年)	(A:10年、B:0年)
囚人A 自白(裏切り)	(A:0年、B:10年)	(A:5年、B:5年)

この場合、互いに裏切る(自白)より協調(黙秘)する方が懲役年数が短い。しかし、自分の利益のみを考えると裏切るほう(自白)が必ず得になる。もちろんここでは、罪を正直に自白しないことの是非は問わない。消費税引き上げ時の「小売店舗のジレンマ」について考えてみる。生活必需品が高く価格感度が低い(価格が変動しても消費量の変化が少ない)商品についてである。売値に引き上げ分を転嫁するか、それとも据置くか(実質値下げ)という悩みが生じる。互いに裏切って価格を据置くよりも協調して転嫁するほうが<sup>1</sup>、必ず売上が大きくなる。しかし、自社の利益のみを考えると「据置(裏切り)」のほうが必ず売上が大きくなる<sup>2</sup>。

	店舗B 転嫁(協調)	店舗B 据置(裏切り)
店舗A 転嫁(協調)	(+, +)	(-, ++)
店舗A 据置(裏切り)	(++, -)	(-, -)

判断が1回切りの場合、売上が重視すれば以上の通り「据置(裏切り)」が解となる。ただし、囚人の場合と異なり、判断が一度きりとは限らない。「転嫁(協調)して様子見をし、競合店が据置(裏切り)をしたら追従する」という戦略もあり、それが解になる場合もある。

また、実際にはここまで単純化することはできず、価格以外にもあの手の手の販売戦略によって、売上アップを図るべく消費者に訴求することになる。もっとも昨年4月の引き上げの際には、価格表示方法の変更や政府による指導等により、比較的スムーズな転嫁(協調)がなされたが。

さらにこの思考実験は、前提で書いたが「価格感度の高い商品」には当てはめにくい。「価格に無頓着で新し物好きの人間」が多い市場にも当てはまらない。ちなみに私、かなりの新し物好きである。

1: 囚人の「協調して黙秘しよう。裏切るなよ」という暗黙の了解に比べて、この場合はそこまでのものはないが、本コラムでは便宜上、この表現を用いる。

2: 利益増になるとは限らない。

非常に大雑把なテーマにしてしまいました。この2014年を一言でまとめるなら「現場復帰」の一年でした。一昨年2013年は店舗数を4店舗に増やしたこともあって、どこか若手実業家の仲間入りをしたのでは？という勘違いから現場を離れ、飲食事業に代わる新たな新規事業に手をつけはじめた一年でした。厄年という災いも相まってか、結果一店舗を閉鎖し、人の問題で苦しむはめになりました。

2014年はその反省も踏まえ、再度現場を駆けまわり、スタッフとともに汗をかき、小さな問題・課題をつぶしていくことに奔走しました。そのおかげもあってか、全ての店が軌道にのり、何よりも私自身の料理の腕があがり、魚の捌きも含めてお客様に全てのメニューをご提供できるようなレベルになりました。よし、これでもう一店舗はオーナーシェフとしてやれるぞ!!

でもまあ、「調理人になるために事業を興したんだっけか?」。とまあ年の瀬も押し迫ったこのタイミングで悩んでしまうわけです。

そして2015年私は何をなすべきなのか? 「より初心に帰る」です。

そもそも事業を興した背景は、前に在職をしていた日本一のポイントサービス運営会社で「地域振興事業」を立ち上げようとしたのですが経営トップに対して、ビジネスとしての採算性の提示はもちろん、具体的にどのようなスキームでやっていくのかもすら満足にプレゼンすることができず、結果勉強をするため二年間大学院に通うために退職をしました。そのうち自分でできる事から始めてみようということで、目黒に能登のアンテナショップをつくり、そこを起点にして一次産業支援のビジネスの足掛かりをつくろうという事でした。が、今や単なる飲食店経営に目覚めてしまい、店舗運営・開発に力を注ぐどこにでもいる中年経営者になりました。

そこで2015年はそもそもの初心に帰り「サラリーマンに戻ろう!」と思います。こう書いてしまうと短絡的ですが、

自分が成し遂げたい目的を達成するためには、当社ではなく、

必要な経営資源を保有する企業に入ることが不可欠

現在の会社については後進のスタッフも育ってきているので、

オーナーとしての関与で十分運営可能

経営者という立場では味わえない、下のレイヤーから

会社経営の視点をもって学びたい

サラリーマン時代は、自分が会社経営するという視点で働いて

いませんでした。非常にもったいない時間でした。

という3つの理由から、前職お世話になった会社に復職しようと目論んでいます。そして、一次産業振興とその周辺機能・サービスのビジネス化に取り組みたい!!

アメリカではビジネスとアカデミックの世界を行き来する人材が多いようですが、自分の意思で経営者とサラリーマンを行き来する、これが私の2015年の野望です!

モスクワに着くと長女の英国留学時代の友人“オルガ”が待っていてくれた。今晚は彼女の住むマンションに世話になることになっている。スーツケースを持っているのでタクシーでとの選択肢があったが、モスクワの渋滞はひどらしく地下鉄に乗ることになった。深く深く急な傾斜の高速エスカレーターに乗り込む。こちらでも左側は空けて追い抜き動線を確認することになっていた。



ホームは美術館を思わせるような内装だけど、入ってきた列車はソ連時代から使っているであろう古いものであった。乗り込むと、車内は混んでいる。椅子に腰掛けている若者はスマホのゲームに夢中だ、隣では電子ブックを読んでいる。いくつ駅を乗るのかと訊いたら「lot!」数えきれない。途中乗り替え2回、ようやく下車。暗くなりかけた道を行くと高層の共同住宅が何棟も見えてきた。



住棟群の中央には池もある公園が広がり、動線部分のみに舗装が延びていた。車道は住棟群の外側に配置され、横断歩道の前後には車が速度を落とす仕掛け「ハンプ」が設けられている。歩車分離が徹底されている。

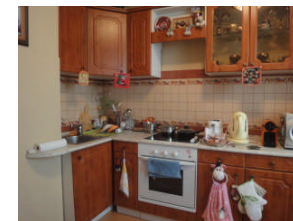
部屋は12階にあり大きな共同住宅ではあるが、各階が四室の縦のブロックごとに入り口がある。ソ連時代からあるこの建物のエレベータの止まるときのガタツキは、今ではなかなか味わうことのできないレベルだ。

12階に着き扉を開けると何と四戸共通の玄関、住戸の扉をさらに開けるといきなり室内となっている。DKに寝室と居間がある。居間のソファがベッドに早変わり。DKの椅子、テーブルもこじんまりしながらもデザインも機能も優れている。若い女性だけに小綺麗、かわいらしい、



清潔な暮らしぶりが表に出ている。世界各国旅しているだけあって、国々の小物が陳列されている。小生は旅先で物を殆ど買わないが、この飾りを見ると考え直す気になった。とりあえずマトリョーシカ買っていこうかな？

夕食は近くのショッピングセンター内のカザフスタン料理店に入った。ラムをブドウの葉で巻いたもの、ラムピラフ、エビサラダ、うーん表現しきれない。アジア色のある料理だった。これにハウスビール1.5リットル呑んで仕上げた。帰ってシャワーを浴びロシア人の家で深い眠りに着いた。



モスクワまで往復3時間以上かかることもあって、モスクワ観光を目一杯やるのではなく、朝はゆっくりし昼食はスーパーで食材を買って日本食をオルガにご馳走することになった。長女の考えたメニューは親子丼と即席のしじみの味噌汁とベジタルブルサラダだった。米を買い、玉ねぎ、玉子を買った。フライパンでご飯を炊き、持ってきた醤油とだしの素を駆使して、無事作り上げた。

オルガは親子丼は気に入ったようだが、しじみの味噌汁は今一つだったかな？暮らすように旅することも面白い。

夕食はモスクワ中心部にあるウクライナのレストランをオルガが予約してくれた。20時からなので、まだ時間はある。先に分かりにくい地下鉄を何とか乗り継いで凱旋広場前にあるマヤコフスカヤ駅に着いた。翌日19時からのショーの予約をチャイコフスキー記念コンサートホールでしたあと、現代史博物館に向かった。17時入館で18時閉館の意識が薄く一時間で半分も見ることできずアウト。追い払うように出された。ロシア人の無愛想さにはムツとくるものがある。お金を払うときでも、「スパシーバ」とお礼を言われたことはなかった、ホテルを除いては。

現代詩博物館内では、とにかく戦いの歴史が続く。国を統治することの険しさ、戦いの悲惨さを目にし改めて、今の幸せとその継続を願わずにはいられない。展示の説明はロシア語のみ、撮影はダメ。時代が進んで日本語の音声ガイド器があるようになったらと思わずにはいられない程、興味深い内容だった。ざ、残念ロシア！